第9回
国際ボランティアワークキャンプ
9th International Volunteer Work Camp
in ASO
報告書

2014年8月15日（金）～17日（日）

国立阿蘇青少年交流の家

Contents

02　目的／概略
03　スケジュール
04　基調講演
　　寸劇
05　第１分科会「ふれあい」
　　第２分科会「自己表現」
06　第３分科会「国際交流」
　　第４分科会「多文化共生」
07　第５分科会「観光」
　　第６分科会「国際ボランティア」
08　第７分科会「食育」
　　全体報告会
09　未来職道
　　キャンドルの集い
10　閉会式
　　SMILE　Station
11　アンケート報告
　　実行委員長挨拶

目的・概要

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

２１世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営するワークキャンプを阿蘇の大自然の中、２泊３日の宿泊型で計画・実施しました。

本ワークキャンプへは114名の高校生、33名の留学生が一般参加者として、また日本人大学生がサポーターとして参加しました。分科会活動等様々な活動をとおし交流、お互いを理解、「思い」を共有し、日ごろの生活の中で活かせるボランティア活動の取り組みに結びつけていくことができました。

第９回となる本年度のボランティアワークキャンプでは、**「思いやりの輪　～みんな同じ空の下～」**をテーマに参加者に、同じ地球上に生活する人として、他者を気遣う優しさを持ってもらいたい！という思いが込められています。

概略

・実施年月日
2014年8月15日（金）～17日（日）2泊3日

・実施会場
国立阿蘇青少年交流の家
（〒869-2692　熊本県阿蘇市一の宮宮地6029-1）

・参加者
147名
（一般高校生94名、実行委員20名、留学生33名）

・主　催
国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
（高校生の実行委員及び構成団体については、最終ページに記載しています。）

・後　援
熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

・事務局　一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

Schedule

8月15日(金)

- **9:30** 熊本市国際交流会館 出発(専用貸切バス)
- **11:20** 国立阿蘇青少年交流の家 到着
- **11:45** 入所オリエンテーション
- **12:00～13:00** 昼食
- **13:00** 開会式・寸劇
- **14:00** 基調講演
- **15:00** 休憩・移動
- **15:30** 分科会活動1(ふれあい、自己表現、国際交流、多文化共生、観光、国際ボランティア、食育)
- **17:30** 夕べの集い(第7分科会は分科会活動)
- **18:00** 夕食
- **19:00** キャンドルの集い
- **21:00** 入浴
- **22:30** 就寝

8月16日(土)

- **6:00** 起床
- **6:20** 清掃
- **6:45** 朝の集い
- **7:00** 朝食
- **9:00～17:00** 分科会
- **17:00** 夕飯・入浴
- **19:00～21:00** 未来職道(いろんな活動家と出会い・話し合う!)12団体出展
- **22:30** 就寝

8月17日(日)

- **6:00** 起床
- **6:20** 清掃
- **6:45** 朝の集い
- **7:00** 朝食
- **8:45～10:45** 報告会
- **10:50～11:30** 閉会式
- **11:30～12:30** 昼食
- **12:50** 国立阿蘇青少年交流の家　出発
- **13:00～14:00** 阿蘇神社門前町にて自由散策
- **14:15** 阿蘇　出発(専用貸切バス)
- **15:50** 熊本市国際交流会館到着(解散)

未来職道協力者(敬称略)

国際協力：大野章子(JICAデスク熊本)、岩坂省吾(フリーザチルドレン)、竹村朋子(外国から来た子ども支援ネット)、成木翔太(フェアトレードシティくまもと推進委員会)、田尻俊次(地雷廃絶と被害者支援の会・熊本)

NGO：本田正之、原田君子、(NGO福岡ネットワーク)、青山きぬ、荒木萌、平山愛梨、Tran Hieu Han(One's 1 APU)

地域創造：野田恭子(肥後熊本城下町学習塾の会)

ボランティア：高見大介(第3回学生ボランティアフォーラム)

国際交流：留学生(APU)、湯元綾香、浜元里菜子(熊本県青年国際交流機構)

アドバイザー：興梠寛(昭和女子大学教授)、西尾雄志(日本財団学生ボランティアセンター長)

「基調講演　興梠寛氏（昭和女子大教授）」

報告者：岩下　時子（熊本高校）

ボランティアワークキャンプのオープニングとして興梠寛先生から基調講演をしていただいた中で、東北を訪れた時に「震災直後は余裕がなかったが、いまでは自分たちがボランティアを受けるより、ボランティアをしたいと思うようになった。」という地元の人の声を聞いたという話がありました。自分が助けてもらったら、また同じ立場の人々や困っている人々を助けたいと思うのはごく自然なことで、だからこそボランティアは続いていくのだということを実感しました。

次にピーターラビットの話がありました。驚きですがボランティアとピーターラビットにはつながりがあるのです。ピーターラビットの作者はその本で得た印税で自然がきれいな土地を買い取り、環境保護に使ったそうです。その活動が評価され、作者が亡くなった後も特別に著作権が作者のものだと認められました。この活動は受け継がれ、今でもその保護は続いています。この話からピーターラビットはボランティアのシンボルとして有名だそうです。このようにボランティアは未来へつながるものだと思います。若い私たちが活動を知って受け継いでいけたらいいと思いました。

講演の後半はワークショップで会場内を動いて楽しみました。このワークショップはラーメン、そば、スパゲティのどれが好きかといった質問に対して当てはまる答えの場所に集まり、そこで周りの人と自己紹介をするというものです。特に楽しかったのは誕生月ごとに分かれて、誕生日が同じ人を探すというものです。同じ誕生日だった人はステージに上がり、参加者の中で10組ほどのペアができました。同じ誕生日の人に会ったことがない人も多く、とても盛り上がりました。このワークショップで、多くの参加者と交流ができ、たくさん話して仲良くなることもできました。

最後はワークショップを通して、ボランティアについて考えました。ボランティアはお互いを理解し合い、自分も相手もハッピーになるように心を配り合うことや行動の自由という自分の意志でボランティアを自主的に行うことが大切だということを学びました。この講演を聞いてボランティアについて多くのことを知ることができたとともにいろいろな視点からボランティアを見ることができ、ボランティアの世界が広がりました。学んだことを今後の活動にも生かしていきたいです。講師の興梠先生ありがとうございました。

「寸劇　～七つの国を巡るたび～」

報告者：松崎　真理（菊池女子高校）

実行委員（EC）紹介が終わった後、劇団ＥＣより、今年の各分科会紹介の意味も込めて、「寸劇」を行いました。寸劇を行うのは今回が初めてでしたが、最後には、参加者の方から大きな拍手を頂き、とっても達成感がありました。

ストーリーは、二人の主人公が豊かな国「ユタカントリー」を目指して旅を始めるというところから始まります。戦争の続いている国、干ばつで苦しむ国、とても寒い国…。さまざまな個性あふれる人々と出逢い交流し、国を巡るたびにいろいろな問題にぶつかり、それでも助け合いながら成長していくふたり…。ようやく、たどり着いた最終目的地「ユタカントリー」は、確かに豊かで、文明も発達していました。しかし、携帯電話やインターネットでしかコミュニケーションをとらなくなった「ユタカントリー」の国民の心は固く閉ざされて、二人が話しかけても何も答えてはくれません。せっかく来ることが出来たのに…。そう言って二人は落ち込んでしまいます。そこに登場するのが、今まで通ってきた国の人々。彼らは自分たちを助けてくれた二人に恩返しをするため、はるばる「ユタカントリー」までやってきたのでした。彼らに諭され、昔の温かい、やさしい心を取り戻した「ユタカントリー」の国民。そして全員は今まで学んだ経験を活かし、思いやりをもって人と接すること、「思いやりの輪」を大きくしていくことを誓います。

自分たちで世界の「思いやりの輪」を大きくしていくと誓った彼らでしたが、たったの二十数人で、世界にまで影響を与えるのはとても難しいことです。だから、最後に彼らはボラキャン参加者全員に呼びかけました。「私たちだけで思いやりの輪を大きくしていくのはとても難しい。けれど、ここにいるみんなが助けてくれたら、協力してくれたら、世界の思いやりの輪を大きくすることがきっとできる。だから手伝ってください!!」その言葉に、参加者の方は元気に「ＹＥＳ!」と返事をしてくれました。

たった10分程度の劇でしたが、その後の２泊３日の活動で、参加者の方が「思いやり」を持ちながら活動してくださっていて、とてもうれしい気持ちになりました。

「劇団ＥＣ」の劇は終わりましたが、みなさんの物語はまだ始まったばかりです。私たちＥＣも全力で頑張っていきます!

皆さんも一緒に思いやりの輪を大きくしていきましょう!!

第１分科会　参加者 21 名「ふれあい」

報告者：児玉　光（北陵高校）

第１分科会では、ふれあいについて活動しました。

1日目は自己紹介と「助け合いスブレーキング」というアイスブレイクを行いました。

助け合いスブレーキングの内容としては、両隣の人と小指を繋いでお菓子を食べるといったものでしたが、参加者の方々は最初からこのアイスブレイクの趣旨を理解されていたようでスムーズに打ちとけることができました。

アイスブレイクの後は「ふれあいってなんだろう?」というタイトルでふれあいと聞いて参加者の皆さんがどんな事を思い浮かべるか、聞いてみました。

２日目には、雨が降っていたので室内で花いちもんめをやりました。

２つのグループに分かれたのですが、一方がとても強くて人数がとても偏ってしまいました。

次に、ECからのふれあいの定義について「ふれあいとは…」というテーマで話がありました。

ふれあいの輪では、２つのグループに分かれて「ふれあいの無い世界」について話し合って意見を出し合いました。

最後はその問題点をすべてひっくり返して問題の無いふれあいのある世界を作りました。

午後は「SNSのメリット／デメリット」について参加者の皆さんと話し合いました。この時に沢山の意見を出していただいたので、とても円滑に話し合いが進みました。

最後は　あなたにとっての「ふれあい」ということでそれぞれに宣言書を書いてもらって写真を撮りました。

僕は参加者の皆様に暖かい気持ちでふれあいを大切にして欲しいと思いこの分科会を企画したのですが、逆に僕の方が優しく暖かい気持ちを受けとれたと感じました。

第２分科会　参加者 19 名「自己表現」

報告者：大藪 裕伸（玉名工業高校）

「あなたは、自己表現というものを知っていますか?」

「じゃあ、自己表現って何なの?」と思われるかもしれませんが、自己表現とは、自分の中にある『なんだかよくわからないもの』を何からの形にして外に出すことです。第2分科会では、そこに視点を向けて活動しました。

１日目は、自己紹介やアイスブレイク(見つめ合い)を行い、自分の意見を言いやすい雰囲気を作りました。自己紹介の時に「私の鏡(自分が相手からどう見られているのか、第一印象を知ることが出来る)」というのを作成しました。そして、「自己紹介の時に自分は自己表現が出来ていたと思いますか?」というのを２日目への宿題として書いてもらいました。

２日目は午前中に、先日の宿題としていたものを出来たか、出来ていなかったかで貼り分けて、なんでそう思ったのか理由も言ってもらいました。そのあと、自己表現の種類について考えてもらいました。参加者のミラクルな発言により、当初の予定よりも早く進んでしまったため、座席の使い方という空間を使った自己表現のワークをしました。これをすると、ほとんどの方が、知らない方の近くには座りたくないということがわかりました。

午後のはじめに、もう一度アイスブレイク(人間知恵の輪)を行いました。このときにはもう、仲良くなっていたようで、皆さん笑顔で楽しんでもらえました。その後、午前中に学んだ自己表現の種類を使って、「普段の生活の中でも自己表現はあります。どのようなものがありますか?」ということを考えてもらいました。

初対面の方と話すときは、笑顔でジェスチャーを交えながら話すなど、たくさんの答えが返ってきました。

最後に参加者一人ひとりに「私の鏡」を返して、自分はこういう風に周りから見られているのかということを自己分析してもらいました。

今回、３日間という短い間でしたが、参加者に自己表現の種類や使い方などを知ってもらえたと思います。これを機にいろいろな場面で今回学んだ自己表現を使ってもらえたら嬉しいです!

第２分科会

第２分科会

第２分科会

第３分科会　参加者 20 名「国際交流」

報告者：作本　寛輝（玉名工業高校）

国際交流を簡単にすると国を越えて仲良くしようという事なので、他文化の人と仲良くするには相手の宗教と言語を理解する必要があると思い、学びました。なぜ宗教と言語にしたかと言うと宗教の先入観や言語の発音の違いで相手を不愉快にさせたりしないようにする為でした。

1日目は他国の人と仲良くする上で難しい事は何か？などの簡単なアンケートやアイスブレーキング(手の輪)、他言語での自己紹介を行いました。手の輪では初対面が多かったのですが打ち解けることができ、綺麗な輪っかが出来ました。自己紹介では、誕生日の人が居たので皆でお祝いしました。

2日目は午前中に講師の田上善浩さんにアンケートをもとにお話をしてもらい、参加者が発言出来るように4つのグループに分かれ宗教や生活習慣でのホスト・ゲストについて考え、信教はどこで産まれたかによって決まるものであり、その人自体は悪くない事、ヒンドゥー教のお祈りでは太陽が昇る前に拝むと健康になると考えられてる事や、ホスト・ゲストについては宗教的に食べれない物もあるので、ホスト側は何を使って食べたり何が食べれないか聞いたり、ゲストに生活習慣を教えたりし、ゲスト側では食べれない物を最初に言ったり出来るだけホスト側の生活習慣に合わせるなどが話に出ました。午後では3つのグループに分かれ、生活習慣で使う挨拶などをフランス語、スペイン語、ロシア語で学び、フランス語とスペイン語は聞いた事のある言葉がありましたがロシア語では全く聞いた事がなく皆で話あって学ぶ事ができ、それぞれ心に残った言葉を書いてもらいました。私自身はロシア語の「ありがとう」ｓｐａｓｉｂｏ（スパシーバ）が1番心に残った言葉でした。

今回、自分達の分科会では宗教や言葉について考えを深めてきましたが今度は自分達が社会に出たときに他国の方と関わる事があるかもしれません、その時に少しでもここで学んだ事を活かして接していけたらいいなと思っています。

3日間という少しの時間でしたが参加者して頂いた皆さん、そして大学生スタッフさんとオブザーバーの皆さん、ありがとうございました。

第３分科会

第３分科会

第３分科会

第４分科会　参加者 23 名「多文化共生」

報告者：藤森　あきの（熊本高校）

第4分科会では、自分もなりうるかもしれない外国人の気持ちや事情を理解し、自分がどう接していけるのか、をテーマに活動しました。

1日目はアイスブレイクとして中国じゃんけんをしました。初めてのじゃんけんの方式でしたが、すぐに馴染んで楽しむことができ、同時に分科会の雰囲気が和やかになりました。

2日目は参加者の方にスペイン語で数学の授業をしました。まずスペイン語で数字を覚えました。予想外にも留学生から韓国語やネパール語でも数字を教えてもらうことができ、様々な言語で数字を言えるようになりました。授業では参加者は外国に留学した学生、という設定にしました。スクリーンに写した問題はもちろんスペイン語。誰も分かりません。そこに先生が来てスペイン語で説明します。参加者はとても困惑した表情でした。しかし、外国から日本語も全然分からないまま、日本につれて来られた子供達が学校でどんな思いなのか、ということを知って欲しかったのです。何を言っているのか分からないまま、授業だけは進んでいく……。そんなときの彼らの気持ちがよく分かったのではないかな、と思います。

報告会のまとめでは参加者全員が今後のアクションプランについて話し合い、それを1人1人がふせんに書きました。「もし、外国人になったら」、「外国人にしてあげたいこと」というお題をもとに皆真剣に考えました。それぞれに自分の思い思いのプランを立てることができ、外国人の立場になる、外国人に分かるまで教えてあげる、など2日間の分科会で学んだことを存分に出しあうことができました。

最後、APUや韓国の留学生の方とお別れするときには、一般参加者の中には寂しさで涙を流している方もいました。この3日間でここまで国を超えて絆ができたのは、まさに「多文化共生」ができたからだと思いました！この経験を生かして、「外国人」という言葉が死語になるような世界をみんなで作っていきたいです。

第５分科会　参加者 20 名「観光～おもてなし～」

報告者：松岡　真輝（熊本信愛女学院）

第５分科会「観光」では私たちにできるおもてなしについて考えました。

１日目はアイスブレイクとQ&Aとおもてなしの意味について意見交換をしました。アイスブレイクではカードを用意し身振り手振りで自分のカードを表現し、仲間を探すというゲームをしました。続いて、グループを作り、世界のマナークイズをしました。正しいノックの回数やフランスでのタブーなポーズなどECの「究極クエスチョンQQ!!」のかけ声でグループ毎に正解を考えました。グループワークだったこともあり、参加者同士の距離が縮まり笑顔もたくさん見られたので嬉しかったです。そして、「おもてなし」と「ホスピタリティ」「マナー」の違いについて考えました。やはり難しかったのは「おもてなし」と「ホスピタリティ」の違いです。それぞれのグループで意見を出し合い発表し、最終的には「どうしたら相手に喜んでもらえるかを最優先した行動」という結論になりました。この場面では参加者も真剣になり話してくれたのでいい意見がたくさん出て私達も考えさせられました。

２日目は世界でのおもてなしについて考えました。バングラデシュ、インド、スリランカ、カンボジアの留学生から自分の国のおもてなしについて話してもらい、カンボジアでのお店の接客はお客に話しかけてフレンドリーなのに対し、インドでは逆に無口等、国による違いが知れて勉強になりました。また、日本に来て困ったことも聞き、そこから解決策を考えていきました。一番多かったのは「英語」です。英語表記が無かったり、英語を喋れる人がいなくて困ったりという意見がたくさんありました。そこで英語表記を増やそうという考えが多かったです。午後からは実際に、阿蘇神社と阿蘇駅を訪れました。阿蘇駅では観光案内所で働いている留学生に話を聞いたりしました。阿蘇駅や阿蘇神社には英語表記のパンフレットなどがたくさん設置してありとても参考になりました。そして阿蘇青少年交流の家に戻ってからは、これらのことをふまえてaction　planを考えました。今回はイスラム教などの宗教に配慮したおもてなしについても触れていたので「異文化理解をする」というplanがあって嬉しかったです。

３日間でしたがおもてなしについて考えを深めることができました。これから日本を訪れる外国の方をもてなす私たちのためになったと思います。この分科会で学んだことを生かし、たくさんおもてなしをしていきたいです。

第６分科会　参加者 22 名「国際ボランティア」

報告者：小田　彩美（熊本信愛女学院）

第6分科会では遠く感じる国際ボランティアを"身近"にし、自分でアクションプランを立てて実行を目指そう!という活動をしました。

1日目は「他己紹介」からスタート。自己紹介と違い、相手の事をよく知らないとできない他己紹介。分科会メンバーと仲良くなり、話し合いやすい雰囲気になりました。また、九州海外協力協会(JOCA)職員の佃　麻実氏をゲストにお迎えしました。青年海外協力隊員としてマダガスカルに行っていた時の貴重な体験談を聴く事ができ、参加者からも沢山の質問が出ました。

2日目は主に4つのワークショップを行いました。まずは、もう一つの人生ゲーム(児童労働シュミレーションカードゲーム)をしました。カードゲームを通して児童労働を強いられている子供達の人生を疑似体験できるというものです。「働く」「物乞い」「盗む」の3つから自分だったらどれを選択するか考えカードを引き人生がスタートします。カードに指示されたように進むことで最終的に「自立」か「死」のどちらかでゴールします。ただゲームをするだけでなく、"どうしてこのような人生になったのか"を考え良い意見を出し合う事が出来ました。これを踏まえ、次は連想ゲーム(ウェビング法)を行いました。国際ボランティアを中心に置きその周りに「問題点」を出し、さらにその「解決策」を外側に書きました。紙に入りきれない程のワードが出て、とても活発な活動になりました。次は自分の「得意なこと」を沢山書き出しました。これらから、次の活動の「Gift(好きなこと、得意なこと)＋Issue(問題点)＝Change(解決策)」へ繋げます。ここでは自分のアクションプランを「実現可能」「持続可能」という視点も入れながら考えました。Giftに自分の得意な事を入れ、関連するIssueとChangeをウェビング法からピックアップしました。「きもだめし＋教育問題＝夜が危険なことを伝える」という面白いアクションプランも出ました。国際ボランティアとは誰だって出来る身近なものだという事が伝わったように感じました。最後の活動は「Small・Wideリスト」という表を作りました。解決までを短期・中期・長期の期間で分類し、個人・地域(学校)・国でのステークホルダーで分けて考える表です。すると、どのくらいの期間でどのくらいの範囲の問題であるか一目で分かります。

この3日間を通し、一人一人が高い意識を持って活動し、素晴らしい分科会活動になりました。活動を支えて下さった全ての方々に感謝します。

第７分科会　参加者 22 名「食育」

報告者：石原　奈都美（尚絅高校）

第7分科会では、私たちが住んでいる世界で起こっている食の問題に目を向け、自分たちに出来ることは何かを見つけるため活動を行いました。

まず１日目は、「食」に触れてもらおうとみんなでピザとパンと鶏の照り焼きを作りました。生地作りは大学生の方々に協力して頂き、私たちと参加者で材料のトッピングをしました。その後、出来上がった料理に歓声が湧きあがり、一緒に美味しくいただきました。このピザ作り活動を行なって、最初はぎこちない様に思えた参加者のみなさんも緊張が少し解けたように感じました。

２日目では、先進国と発展途上国の抱えている問題と、食べられるのに捨ててしまっている現状について分科会のみなさんで原因を考え、解決策を出し合いました。結果として、食の知識や意識を改めることや、自分に必要なものなのか見極めるなどの様々な意見を出すことができました。また、日本や世界で行なっている活動に触れることもできました。

次に、午後からは自分たちに今から出来ること考えてもらいました。そのあと、これから実践していくことを一人一人に掲げてもらいました。掲げた意見は人それぞれですが、小さな事を少しでも行動に移していけたらいいなと思います。

この３日間は長いようでとても短く感じましたが、私たち実行委員が良い刺激を受けることのできた３日間でした。そして、「食育」をテーマとした第７分科会に参加してくださったみなさん、サポートしてくださった大学生の方々と一緒に活動できたことを嬉しく思うと同時に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、今回の分科会を通して得たものや自分で掲げた目標があると思いますが、自分の今後の生活にみなさんが活かしていただけることを願っています。

「全体報告会」

報告者：宮副　大佑（学園大付属高校）

「全体報告会」は自分たちが参加した分科会の活動を他分科会の参加者に発表し共有しあってこれからの自分たちを考えるボラキャンの中でも一番大事なものです。昨年と同様にポスターセッション形式でグループに分かれて、発表者と聞き手に回るという形をとりました。

発表では、2日間の分科会の中で学び、考えたことを発表し、そこで出た質問に対して答えることでより一層考えを深めることができました。また、参加者が自分の経験談だったり、時間が足りないくらい話すことがたくさんありと聞いている側にもその思いがひしひしと伝わってきました。なにより参加者のみなさんがきちんと分科会であったことをよく聞いてよく考えて、自分の意見を持ってくれていたので嬉しかったです。

発表後は、また分科会ごとに分かれて報告会で出された質問に対しての答えを全員で考え、導き出すことによってさらなるまとまりが出来たと思います。そして、お互いの理解もより一層深まりました。

各分科会からの代表者によるまとめでは、次につなげるアクションプランの準備ができている人やこの3日間のボラキャンを通して他の学校の人や留学生と友達になったことなど、沢山の交流を通して「思いやりの輪」が広がっておりそれぞれに実りのある経験をしていたようでした。

報告会は大会プログラムとしては最後だったので終わりが近づくにつれてみんな達成感に加えてお別れの悲しみも募っていたように見えました。ECも伝えたいことがみんなに伝わっていて今までの頑張りが報われてよかったです。

「未来職道」

報告者：藤本　良美（文徳高校）

ボランティアワークキャンプ2日目の夜には、「未来職道」を行いました。

未来職道では、熊本をはじめ世界各地で様々な分野の活動を行われている方々のお話を聞くことができました。

今回は、12団体が参加してくださいました。

各団体紹介から始まり、参加者の皆さん各ブースに移動し、普段直接話す機会のない活動家の方々のお話を熱心に聞いていました。活動家の方々も、世界が抱えているたくさんの問題と、そのための活動を参加者に伝えて下さいました。参加者の皆さんは知らなかったことを知ることで視野を広げることができ、活動家の方々の活動への思いに触れることが出来たのではないかと思います。

私は、世界でなにが起きているのかを正しく知り、知ったうえで、そのために出来ることを出来る範囲で持続的に続けられるようにしたいです。

また、APUのブースでは民族衣装を身にまとった大学生、浴衣をきたECメンバーなど華やかな部分もあり、時間を楽しく過ごせたことだと思います。

最後にこのような機会を設けて下さった関係者の方々、事務局のみなさん、参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

「キャンドルの集い」

報告者：桑本　始奈（熊本西高校）

参加者の緊張が少しずつほぐれ、仲良くなってきた頃に全体交流会としてキャンドルの集いを行いました。天気はあいにくの雨で予定していたキャンプファイヤーはできませんでしたが、雨にも負けないとても盛り上がる会となりました。

キャンドルの集いには欠かせない女神の登場までには色々なハプニングもありました。時間の関係上で女神の準備が遅れてしまい参加者がどんどん集まってくるに連れて、実行委員の焦りや緊張も高まっていきました。そこで、急遽予定変更をし、女神の登場を遅らせ、先にバースデーチェーンから行いました。留学生に説明がうまくいかなかったのですが、周りにいた高校生が教えてる様子も見えとても良かったです。バースデーチェーンの後、もう少し女神に準備が必要だと言うことで次に予定していたポニーを行いました。まず、説明のために実行委員がやってみせました。すると一緒にかけ声をかけてくれたり、手拍子をしてくれたりとっても温かい気持ちになりました。さて、本番で参加者にレクチャーしてもらった所で実行委員も輪に入りやってみました。最初は恥ずかしがっていた参加者もいましたが、凄く楽しく盛り上がることができました。ポニーが終わり、お待ちかねの女神の登場ではとても神秘的な雰囲気に包まれ、あまりの美しさにシャッターの音が絶えることはなかったです。女神が全てのキャンドルに火を付け終えた所で退場し、神秘的な雰囲気とは一転変わり、フラッシュモブを行いました。フラッシュモブでは、ウェイビングフラッグ、江南スタイル・ハッピー、ワカワカの三曲で行いました。実行委員のメンバーたちも盛り上げるために、カラフルなアフロのかぶり物を用意したり、サングラスを用意したり頑張りました。その結果もあり、皆さんとてもノリノリで盛り上がってくれてすごく楽しかったです。

実行委員としては、いつどこでどんなハプニングが起こるかわからないなと実感させられました。先を見越しての計画や行動、ハプニングが起きてしまった場合の臨機応変な対応もすごく重要だと感じることが出来ました。

留学生を含め参加者の皆さんの積極的な行動のお陰で、楽しくとっても盛り上がる全体交流会（キャンドルの集い）を行うことができました。この交流会でできた輪をこれからも大切にしていってほしいなと思います。

「閉会式」

報告者：土井口　貴章（玉名工業高校）

閉会式は3日間のボラキャンの終わりを告げ、新たな生活への出発点となります。

始めのフラッシュモブはwavin-flagの曲に合わせて歌って踊りました。参加者も立って少し照れながら笑顔で一緒に踊ってくれたので、ボラキャンによってできた繋がりがより一層深まった気がして嬉しかったです。

感想発表では、それぞれの分科会の代表者が1人ずつ前に出て1～7分科会の順番に発表していきました。「ふれあいの大切さを感じることができた。」「人は1人では生きていけないんだ。」「また参加したい。」「今回のボラキャンが最後の参加になるけど本当に楽しかった。」という参加者の声を聞くことができ、各々が3日間の活動で感じたことがしっかりと伝わってきました。そして、これから起こる様々な出来事に対し「We can do it!～我々はやればできる!～」という言葉をみんなで声を合わせて言ったことはとても印象的でした。

「日本は金持ちの国だというイメージで日本に来た、でも日本では金が無いとその日1日を生きていくこともできん。」講話をしてくださった講師の西尾氏(日本財団学生ボランティアセンター長)が外国から日本に来た友達から聞いた言葉です。「お金が無くても繋がりがあればその日1日を生きていくことのできる社会に変えなければいけない。」とこれからの未来を担っていく私たちが築いていくべき社会の姿や、人と人との"繋がり"の大切さを教えてくださり、ボラキャンに参加して繋がることができたこと、その繋がりを大切にしていくことが社会を変える一歩だと学びました。

参加者のみんなが前に出てきて歌った「キセキの旅」では、みんなが一つになって歌っている姿を見ることができ、とても感動しました。"私たちは輝石なんだ"というように、一人ひとりが笑顔で輝いて見えました。

閉会宣言で前に出て「"思いやりの輪"をつくることができましたか?」の問いにみんなが「できた!」と答えてくれて、これで終わりではなく3日間でつくることのできた"思いやりの輪"、そして"繋がり"をこれからも大切にしていくことで、ボラキャンは形としては終わってもずっと続いていくんだと思いました。

「Smile Station スマイルステーション」

報告者：宮本　芽依（尚絅高校）

スマイルステーション(通称 スマステ)は、高校生が自分たちにできるボランティアを探し、ボランティアの輪を広げるという目的のもと月に一度国際交流会館で活動をしています。

現在の活動としては、ボランティアに関する情報交換を行ったり、高校行事等の情報共有、高校生目線で上通りのお店を紹介している地図「上通なう」の情報更新、その他にもみんなで楽しめるゲームをしたり多くの高校生との交流を楽しんでいます♪

これからは、ワークショップの開催や、自分たちにできるボランティアを企画し、活動していけたらと思っています。スマイルステーションに参加することで多くの高校生との交流ができ、友達の輪が広がるかと思います。

ボランティアをしたい!もっと視野を広げたい!他の高校の友達を作りたい!と思っている人は気軽に参加してみてください☆

▶Smile Station BLOG　http://blog.goo.ne.jp/smilesta

「お礼のメッセージ from 実行委員」

実行委員長：松崎　真理（菊池女子高校）

皆さんお久しぶりです。第9回国際ボランティアワークキャンプ実行委員長の松崎真理です。

ボラキャンが終わってから、どのようにお過ごしでしょうか？学校のお友達にボラキャンの話をしたり、SMILE　Stationに来てくれる参加者の方もいて、とても嬉しいです。

さて、報告書が完成しました。

分科会活動、キャンドルサービス、未来職道、etc…楽しかった思い出が詰め込まれたアルバムのように楽しみながら読んで下さい！そして、思い出を振り返って貰えたら嬉しいです。

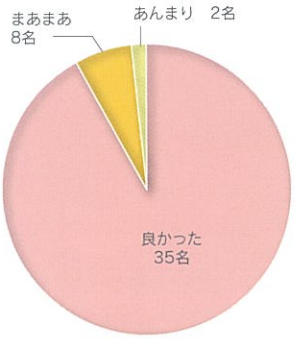
とても楽しい第9回国際ボランティアワークキャンプ in ASOでした！ありがとうございました！

それでは、また、お会いできますように。

ボラキャン実行委員を代表して…

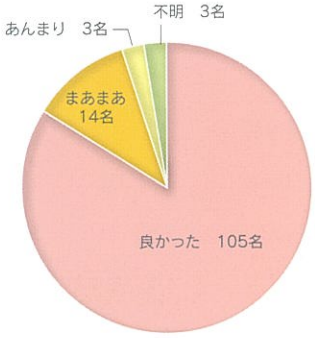
「アンケート報告 Questionnaire」

分科会はどうでしたか？



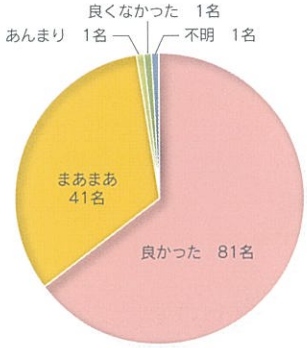
- 外国の人と交流できたのは嬉しかった。
- めちゃくちゃ楽しかったし、将来の自分のしたいことが少し見えた。
- ゲームや授業が楽しかった。
- 自分の考え方とは違う新しい考え方を得た。

未来職道はどうでしたか？



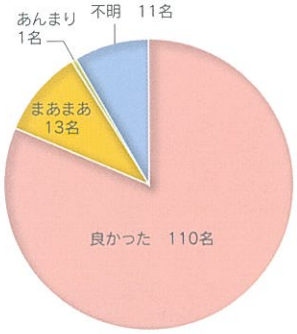
- 世界で活躍されている人の話はためになって良かった。
- いろいろなブースがあって楽しかった。
- APU の人たちが伝統の歌や踊りを見せてくれて楽しかった。
- 国際ボランティアをしたいと思った。

基調講義はどうでしたか？



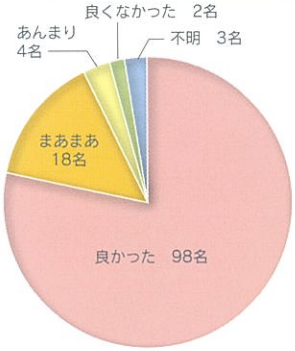
- ピーターラビットの具体例があって良かった。
- 体を使うところもあって良かった。
- グループに分かれて動く活動が良かった。
- ボランティアについて理解を深めることができた。

全体を通して今回のキャンプはどうでしたか？



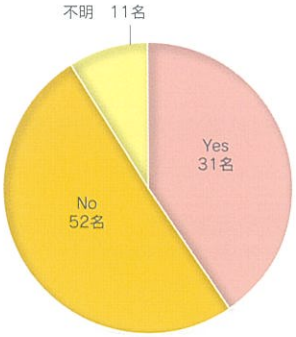
- 外国人の友達ができて嬉しい。
- 夏休み一番の最高な時間を過ごせた。
- 来年も行きたいと思います。
- 充実していたと思います。
- 外国の方と触れ合う良い機会でした。

全体交流会「キャンプファイヤー」はどうでしたか？



- ダンスやポニーが楽しくて多くの人と接することができた。
- 今回のボラキャンで一番楽しかった。
- 国境が無かった。
- 踊ったり歌ったりと楽しかった。

このキャンプの実行委員をやってみたいと思いますか？



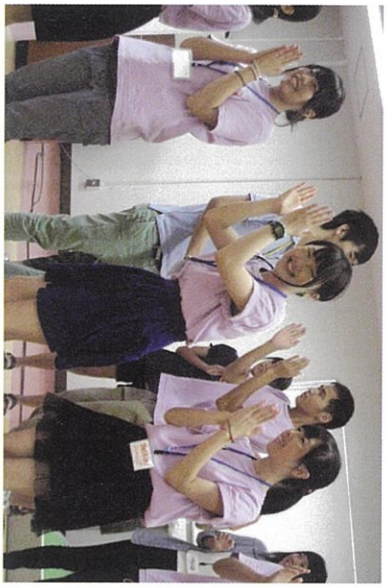
9th International Volunteer Work Camp

主催

第９回　国際ボランティアワークキャンプ実行委員会

高校生実行委員会メンバー

松崎　真理	菊池女子高等学校	(実行委員長)
作本　寛輝	玉名工業高等学校	(副実行委員長)
松岡　真輝	熊本信愛女学院高等学校	(副実行委員長)
劉　睿楠	鹿本高等学校	
岩下　時子	熊本高等学校	
藤森　あきの	熊本高等学校	
宮副　大佑	熊本学園大学付属高等学校	
陳　圣海	熊本商業高等学校	
小田　彩美	熊本信愛女学院高等学校	
吉田　真優	熊本済々黌高等学校	
桑本　始奈	熊本西高等学校	
宮本　芽衣	尚絅高等学校	
石原　奈都美	尚絅高等学校	
田上　佳奈	尚絅高等学校	
大藪　裕伸	玉名工業高等学校	
土井口　貴章	玉名工業高等学校	
小池　登　アンヘル	必由館高等学校	
白石　琴美	文徳高等学校	
藤本　良美	文徳高等学校	
児玉　光	北稜高等学校	



構成団体

株式会社近代経営研究所、熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団、株式会社日本リモナイト

協賛・協力団体

立命館アジア太平洋大学(APU)
独立行政法人国際協力機構九州国際センター

後援

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

事務局

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
熊本市花畑町4番18号　熊本市国際交流会館
TEL：096-359-2121

平成26年度 子どもゆめ基金助成事業